

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成30年 8月23日 (木) 9時45分～11時30分

2 場 所 横浜市大佛次郎記念館会議室

3 出席者 金 侑可 委員、富岡 幸一郎 委員、中島 秀男 委員、八ッ橋 治郎 委員、
米本 良子 委員 (50音順)

4 欠席者 無し

5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 委員長の選出 (2) 定足数の確認について (3) 委員会の公開・非公開について (4) 平成29年度業務評価
委員意見等	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 挨拶 (2) 委員、指定管理者及び事務局紹介 <p>2 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 (3) 「平成29年度業務評価」 <ul style="list-style-type: none"> ア 評価関係資料について <ul style="list-style-type: none"> (ア) 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使う資料、評価方法について説明があった。 (イ) 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、業務報告書に基づき、平成29年度事業実績として、基本方針及び達成目標の総括、事業、運営、管理及び収支決算などについて、実績の説明があった。評価表に基づき、指定管理者から自己評価について、要点の説明があった。 (ウ) 行政評価について 事務局から行政評価について、要点の説明があった。 イ 指定管理者へのヒアリング (以下「・」及び「→」は委員、「○」及び「⇒」は

指定管理者、「◎」及び「➡」は市)

委員から指定管理者に対する質疑応答及び評価内容（評価できる点、改善すべき点）の説明を行った。

「I文化事業」について

《評価内容の説明》

【評価できる点】

- ・テーマ展示を3回実施したが、どの回も内容が大変充実しており、中身のよさが観覧者数にも大きく反映された。テーマ展示Ⅲの観覧者数が目標数に達しなかったが、天候等の影響と思われるので、マイナスの評価とはならないのではないかと。
- ・研究員の展示案内や解説が大変分かりやすく、リピーターにもつながったのではないかと。
- ・ミニ本「鎌倉通信 ー若い人達にー」は、とても読みやすくいいものだった。今後もこのような取組をぜひ続けていただきたい。
- ・工夫した展示を展開して、大幅な来館者の増加等の成果が得られた。「大佛次郎×ねこ写真展2018」等も非常によかった。
- ・英語表記の実施のほか町内会経由でのチラシ配布により、オープンデーの集客につながった点を評価する。
- ・YouTubeとQRコードを利用した音声ガイドを試行した。YouTubeやQRコードで対応できるのであれば、そういう取組もよい。
- ・「おさらぎ選書」への寄稿に科研費を活用した点は非常に意味があり、貴館が直接的にということだけでなく、助成金等に係る点は意識を持った方がよいと思われ、評価する。

【改善が必要な点】

- ・和室に対する今後の活用の方向性が少し分かりづらい。
- ・大佛次郎賞の記念講演会が好評だったため、例えば冬場の来館者が少ない時期に、受賞者の講演会等を活用してはどうか。
- ・大佛次郎の愛した世界観が、作品としてどう描かれているかが伝わる企画を具体化し続けてほしいので、作品の紹介にとどまらず、大佛次郎の人となりや作品が結びつくようなものが今後も継続されるとよい。
- ・SNSの積極活用については、フェイスブックとインスタグラムとツイッターの利用者層を意識した使い分けをした方がよい。インスタグラムでは、なるべく画像を上げ積極活用をしつつ、若い層を呼び込む取組を継続してもらいたい。

《質疑応答》

- ・人材配置で述べられているそれぞれの役割を教えてください。
 - ⇒ 館長職は館全体のマネジメントを担う。事務職員は、経理と広報の担当と、営繕関係、施設の運営、貸し館等の施設管理の担当からなる。研究員は、大佛次郎所蔵品の管理、調査研究を行う。
- ・運営組織体制の人員だが、展示の企画と展示を実際並べるのは事務職員か。
 - ⇒ 研究員2名が展示に応じて、主担当、副担当という役割で行った。
 - 2名で展示替えを行っているのか。
 - ⇒ 研究員2名が中心になり、職員全員で行った。
- ・I PMの狙いは何か。成果を検証する仕組みも含まれているのか。
 - ⇒ 従来は年1回、業者によるくん蒸作業が主だった。I PMは予防的観点が大きく、

各職員が予防のための対策を考え、継続的かつ主体的に取り組むことにより害虫やカビを防ぐことが目的。成果検証は、業者が害虫やカビの状況をモニターする。

- I PMは一般的に行われる傾向にあるものなのか。
- ⇒ 美術館や博物館は全国的に取り入れているようである。I PMの利点は、薬剤を使わないことで資料を傷めないことである。
- ・「おさらぎ選書」の編集刊行費用は、大佛次郎研究会ではなく貴館で負担しているのか。
 - ⇒ 当館が刊行費を出している。収入は、選書の販売代金と広告掲載料を充当している。ただ、持ち出しはある。昨年度の科研費の助成金は執筆者が獲得したものである。
- ・「おさらぎ選書」は非常に貴重である。例えば「おさらぎ選書」で大佛次郎賞の受賞者に大佛次郎についてのエッセイ書いてもらう等、賞の主催者である朝日新聞社との連携の中で「おさらぎ選書」を出せれば、広報面等効果的ではないか。大佛次郎賞は非常に大きな賞であり、近年は著名な作家が受賞している。
 - ⇒ 「おさらぎ選書」の選書の独立性ということを考えると、特定の会社との連携というのは、現在なかなか考えにくい。

「II 施設運営」及び「III 維持管理」について

《評価内容の説明及び質疑》

【評価できる点】

- ・英語のキャプションを追加し、多言語対応の実施を行った点は大変評価できる。
- ・QRコードを用いた音声ガイドも大変すばらしい取組である。
- ・いつ貴館を訪れても美観が保たれ、居心地のいい空間である。今後も引き続き良好な維持管理を行ってほしい。
- ・会議室の利用率は上がったことがよかった。
- ・入館者の増加が評価できる。ロッカーの利用料金の変更をしたこと、入館料支払がSuica対応可能になったこと、市内企業への発注の目標を達成した点が評価できる。
- ・近隣住民へのダイレクトメール等、地域と一緒に施設活性化や価値向上を進めていく方向性が見え始めたところがよかった。
- ・ドレス撮影の増加や、QRコードでの音声ガイドの件等、プラスになることに取組んだ点を評価したい。

【改善が必要な点】

- ・和室の利用率はキャンペーン等をどういった形で打ち出していくのか検討を要する。
- ・非常に難しい課題だが、大佛次郎著の書籍が一般にはあまり販売されておらず、長期的には何とかならないか。実際に作品に触れる機会が少ない。
- ・建築年数を考慮すると、建物の修繕は長期的に大変だと思うので、横浜市と連携して考えてほしい。
 - ⇒ 修繕費はある程度は予算の段階で想定して計上しているが、築40年を経過した建物なので、予想外の不具合が生じることもままある。その際は財団事務局とも相談し、予算措置をとる。また、金額によっては横浜市と相談を行うことになる。
- ・和室の利用率の向上が必要。最近では、訪日外国人がお茶や日本食といった、日本文化を体験するツアーが充実しているようである。もし食事が可能ならば、オリンピックで訪

日外国人が増えると思うので、ツアー会社に営業等をしてみてはいかがか。

- ・和室利用を増やすというところで、施設の魅力を伝えるには写真が良い。インスタグラムも活用し、写真を載せるといいが、現在、貴館ホームページの施設貸出のページに画像がない。魅力を視覚的に見せることは難しくないで、事例をいくつか載せるとよい。
- ・地域との協働や連携先という点は、双方がうまくいく関係作りを、今後も引き続き進めていくべきである。
- ・維持管理は基本的には日常業務として支障のない展開をしている。開館40年が経過している点や、入館者数が増加している点を考慮し、防火及び防災の観点から、利用者やスタッフ、資料の安全確保のため、対応のチェックを続けるべきである。

《質疑応答》

- ・和室はもう少し使われればいいが、何か方法はないのか。
 - ⇒ アイデアを検討したい。洋館の中に本格的なお茶室があるのは大変な魅力であり、当館主催の茶会を30年度12月に開催したいと考えている。茶室があるということ、魅力的な空間を安価に提供できることをその際にPRしたい。
 - 学校の茶道部だけではなく、いろいろ使えるようにしたい。
- ・展示の写真撮影は禁止なのか。写真撮影の可能性というのは、建物も含めてないのか。
 - ⇒ 禁止である。建物の内観、外観、1階部分は撮影自由である。展示の撮影は資料の権利関係の観点から禁止しているが、今後検討の余地はある。写真をお客様が拡散すると、広報上も有効だと思う。例えば、特定の作品は撮影可能にするという方法もあるかもしれない。
- ・時期的に研修会への参加が難しかったということだが、昨年度の評価では多忙だった旨の記載があったものの、今年度は記載がほぼない理由は何か。
 - ⇒ 当該記載のあった年度は、指定管理制度導入の1年目であり、新しく「大佛次郎×ねこ写真展」等の取組を始めた年だった。昨年度は大佛次郎生誕120周年で、事業数及び業務量は決して少なくないが、「大佛次郎×ねこ写真展」も2年目でスムーズに運んだことに加え、職員のスキルが上がりチームワーク良く業務を行えた。
- ・ウッドデッキの活用例について、会議室で展示を行っている場合はどうなるのか。
 - ⇒ 会議室は貸し室なので、利用者がウッドデッキ（テラス）に出ることは可能である。従前はウッドデッキがなく、安全管理上の問題から、テラスに出ることは推奨できなかった。ウッドデッキの設置により、利用者からは、テラスを舞台装置に使ってみたい、外での野点風のお茶会に利用したいという声もいただいている。

「IV 収支について」

《評価内容の説明及び質疑》

【評価できる点】

- ・ショップの売り上げが大変伸び、評価したい。
- ・猫に由来のある場所で猫のグッズを買うというのは、来館した記憶に残る。
 - ⇒ 猫グッズに関するカプセル自販機は、30年度の6月下旬から夏休みの時期を狙って設置している。
- ・収支が入場者の大幅な増加、ショップの売上増加で上がったことは大きな成果である。

指定管理制度が開始してから非常にさまざまな工夫や試みを実施したこと、館の外に出て活動して来館者を呼び寄せたこと、そういった積極的な文学館の新しい形が作られつつあるところが収支にも反映されており、評価したい。

- ・ ショップ収入、自主事業収入が予算額をはるかに上回っており、大変評価できる。

【改善が必要な点】

- ・ 来館者が増加し電気代等が上がったとのことだが、今後は省エネも進めるとよい。来館者が増えるほど電気代が増大し赤字になるという構造だと厳しいので、機器更新時に省エネ製品を導入する等、対応していただきたい。
- ・ 入館者増による収入増、ショップ売上の収入増が収支決算書では分かりにくい。
- ・ 収入増とコスト縮減の両方とも、予算ありきで考えることである。急に黒字が出るとか、突然に赤字になるということが計画としては一番よくないので、予算計画も自主事業を含めた事業内容に合わせて立ててもらいたい。

《質疑応答》

- ・ 収支決算書の様式中、収入の部の三角マークが分かりにくく、何とかならないか。
 - ➡ 本市の指定管理施設における全市共通の様式なので、当該様式の所管部署と指摘内容を情報共有したい。
- ・ 自主事業費の内訳が分かりにくい。例えばショップ収入なら、猫の関連グッズの売上が分かれば、もう少し比較しやすい。
 - ➡ 内訳は必要な情報は記載すべきだが、全てを書くのは様式の形式からみても難しいので、質疑応答での対応で補足させていただきたい。
 - 指定管理者の頑張りがストレートに見えるといい。
- ・ 何が一番売れたのか、ショップ売上で利益があったのは何か。
 - ⇒ 一番の売上は書籍「大佛次郎と猫」だった。テーマ展示Ⅱ「大佛次郎と501匹の猫」の公式カタログと位置づけたこと、猫が全面に出ているという書籍自体の魅力があって、この売上となった。ショップでは多くの商品を扱っており、いろいろな品を置くことにより、購買意欲をそそる品揃えを心がけた。
- ・ 行政評価で「収支のバランスに配慮した予算執行」とあるが、「収支のバランス」が何を指しているのか。具体的にあれば教えていただきたい。
 - ➡ 指定管理者の収入としては、主に指定管理料と、施設利用料、事業収入、ショップ売上があり、また支出としては、人件費、施設運営費、施設修繕費がある。収支の黒字が大きすぎても赤字が出すぎても、持続性という点から課題があるので、そこを意識した予算執行をお願いしたいという趣旨で「収支のバランス」とした。
 - ⇒ むやみに利益を上げるなどという意味合いが多少入ってはいるのか。
 - ➡ 指定管理者制度上は、施設の創意工夫により利益を出すことを否定しておらず、そういう取組は積極的にしていただきたい。それをインセンティブとしながらも、黒字分は来館者サービス向上につながる還元をしてもらいたいため、この両者のバランスを取るのが大事だと考える。
- ・ 自主事業費にショップ仕入れ費が含まれているとのことだが、ショップ売上の収支を教えてください。

⇒ ショップ売上の収支は、商品の仕入れ費が225万円、売上は292万円。差し引き約67万円の利益が計上できた。

「その他」及び「総括」について

- ・ 現在、文豪を取り上げたゲームとアニメの人気作品があり、若い女性が近代文学の作家に非常に興味を持っている。当該作品のファンが個人の文学館や記念館に大挙して押し寄せる等、今までにない状況が出ている。一過性ではないブームになっていると思うので、大佛次郎という存在をアピールすることが大事である。
- ・ 大佛次郎は日本の文学史だけでなく、近代史の中でも突出した存在である。記念館だけでなく横浜市も大佛次郎という存在をアピールし、後世に残す責任があるのではないかと。猫は大きな一助になったが、本体としての大佛次郎の評価についてのアピールを要する。
- ・ 指定管理者制度の原則公募の考え方に立てば、非公募指定の団体は一般的には誤解を生みやすい状況であるが、貴館は、設置者、指定管理者、選定評価委員の評価を通じ、それぞれのチェックを重ねて活動の中身を確認し、適切に運営されている。今後も新しい展開を進めてもらいたい。
- ・ 指定管理制度の導入から3年目となったが、さらに内容の深い展示がされており、充実していた。しかし、まだ大佛次郎について周知が広がっていない点もあるので、どう普及するのか考えてもらいたい。また、子供たちの読書推進に関する取組はどのようなことをしていくのかを模索しながら、今後も広く市民の方に愛される施設であってほしい。
- ・ どの記念館や文学館もそうだが、限られた人数で組織を運営し、成果をあげるために非常に厳しい労務状況に陥っていると推測する。人材の確保等の運営が、長期的に非常に大事な問題になる。
- ・ 総括は、入館者の増加に尽きる。テーマ展示Ⅲの入館者がそれほど多くないが、この入館者数が元の姿ではないか。それを踏まえ、猫関連の事業やオープンデー等により来館者数が増えたのは、やるべきことが見え、ある程度人が来ることが分かる年だったのではないかと。テーマ展示Ⅲのような展示が本来の姿で、それを基本にするのか、来館者が増えるような事業がよいとするのかを考えるのが次の年ではないか。
- ・ 入館者が増えることは、どこの美術館や文学館にも求められることであり、人の集まる展示をやるのか、やるべきことをやるのか、その両立は非常に難しい。大佛次郎は横浜で長く伝えていかなければならない人で、その存在感を維持するためにも入館者の増加は一定の評価はあるのではないかと。猫で親しまれたり、SNSで拡散されたり、一定の存在感が得られてきたら、そこから大佛次郎の伝えたいこと、本当に素晴らしい作品があるということを、猫等から入った人にも少しずつ伝える時期が来るのではないかと。
- ・ おおむね良好な活動を進めることができた1年で、2万4,492人という来館者数は今までにないことで評価したい。集客が増えると、やはり利用者の安全が大切なので、ぜひ防災管理や事故管理面の注意を怠ることなく進めていただきたい。

3 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを見直し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。